

**製品名: GIPR ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab11446**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	53kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GIPR
別名	GIPR; Gastric inhibitory polypeptide receptor; GIP-R; Glucose-dependent insulinotropic polypeptide receptor
遺伝子 ID	2696.0
SwissProt ID	P48546
免疫原	抗血清はヒト GIPR 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 93-142

**背景**

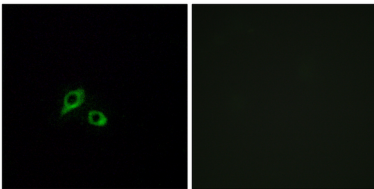
この遺伝子は、胃抑制ポリペプチド (GIP) の G タンパク質共役受容体をコードしています。GIP はもともと腸管抽出物中の胃酸分泌

とガストリン放出を阻害する活性として同定されましたが、その後、高血糖下でインスリン放出を刺激することが実証されました。この遺伝子を欠損したマウスは、経口ブドウ糖負荷後、血糖値が上昇し、初期のインスリン反応が阻害されます。したがって、この遺伝子の欠陥は糖尿病の発症に寄与している可能性があります。[RefSeq 提供、2011年10月],機能: これは GIP の受容体です。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介されます。類似性: G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。、

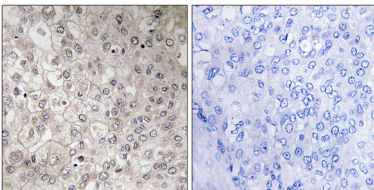
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

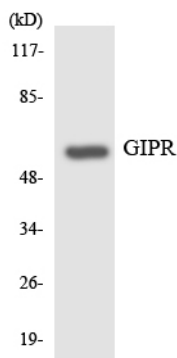
## 画像データ



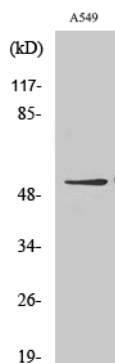
GIPR 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



GIPR 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



GIPR 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



GIPR ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウエスタンブロット分析